

トピックス2

NRSの源流 バルク事業の利便性向上・汎用化への貢献度が映すNRSイズム（みんなの幸せを）

- 1946年、戦後の荒廃の中、日本再興への使命感とロマンを胸に、日本陸運産業として現NRSが創業
- スタート時の石油輸送から1970年代、化学品スペシャリティのバルク（大量）輸送へ事業構造変革
- 輸送形態・規模を当時のタンクローリー中心からコンテナ（大量）輸送へ転換、本格的なバルク事業の先駆者として業界をリード、NRSの礎となる
- 事業形態は、創業からの貨物・タンク輸送からバルク事業・倉庫保管事業（1972）・コンテナ事業・フォワーディングへと拡大、化学品物流業界をリードする組織・企業として揺るがぬ地位を獲得

バルク事業を推進・拡張する上では課題（規制）も多く、その過程は決して平坦なものではありませんでした

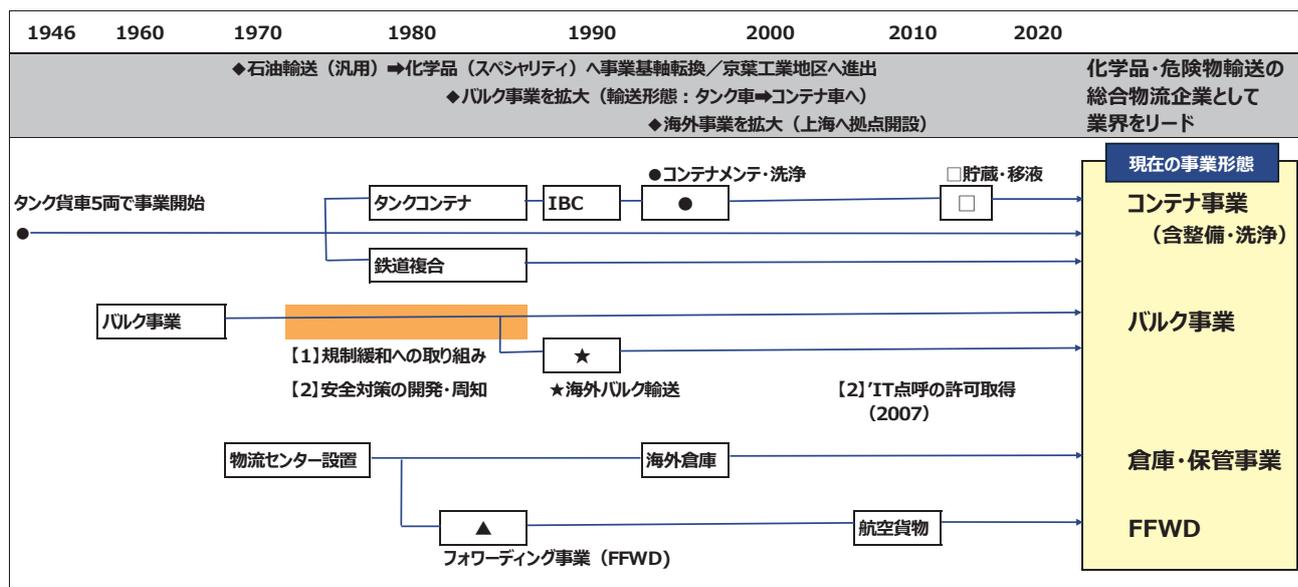
課題の一つは、コンテナ輸送転換期の国内輸送規制緩和への奔走（24tシャーシの開発）

もう一つは、大量陸上輸送に伴う車体の壮行不安全性への対応でした（横転事故を経験）

ここではまず当社の総合物流企業への足跡（下表）、そのあと特筆すべき規制緩和への取り組みを紹介します

当社の分岐点

- ◆ 1946年 創業
- ◆ 1970年代 化学品輸送へ事業転換期
- ◆ 1980年代 **バルク事業拡大期**
- ◆ 1990年代 海外事業進出期
- ◆ 2025年 アリゾナ（米）拠点開設



●規制緩和への取り組み

バルク（大量）輸送への障壁は、大型貨物車両の国内運用制限、公道での総重量制限、取扱い品目によってはの運送量上限値が挙げられます
 また、輸送時の走行安定性の確保も同時に発生する・影響を受ける課題となっておりました
 NRSではこれらの課題を受け止め、確実に解決・解消し、バルク事業を経営の中核へ位置付け、今後も成長セグメントとして推進してまいります

	ISOタンクコンテナ運用規制	重量規制		関連する重要事項 安全対策	NRSの関わり																		
		本体	取扱い物																				
1982	消防庁19号通達 ●1/条件付きで国内運用許可				タンク車⇒コンテナ車へ（バルク物流本流期到来） タンクローリー（1車1品目輸送）の弱点改善 コンテナ車導入で複数品目の輸送実現 （輸送効率改善・固定費削減）																		
1984	24tの20ftタンクコンテナの40ft 専用シャーシによる通行許可				●1：移動タンク貯蔵所（タンクローリー規制と同じ）																		
1985		最大積載量24tのISOタンクコンテナ の国内運用許可																					
1988	政令第358号																						
1989	自治省令第5号																						
1992	●1/19号通達廃止 （53号通達で） 規制廃止までの年数 1982年⇒1992年				●1：完成検査の簡素化等18項目の規制緩和の達成																		
1994	IBC-PJ発足	(IBC:250~3,000ℓの中型タンクの総称)																					
1995	IBCでの危険物国内運用許可	●2 IBCレンタル開始・1Kℓ容器開発																					
1998		●3：国際海上コンテナ（★輸出入貨物限定） 最大積載量 20ftコンテナ：20.32t → 24t 40ftコンテナ：24t⇒30.48t			●3：最大積載量20.32tではタンクコンテナのメリット なし = 輸送可能数量は変わらない 単位：t																		
1999		ISO20ftタンクコンテナフル積載時 危険物運用タンクコンテナ（★） 最大積載量：24t⇒30.48t			<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>最大積載 重量</th> <th>本体重量</th> <th>積載貨物 総重量</th> <th>容器重量</th> <th>輸送可能 総量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ISOタンクコンテナ</td> <td>20.32</td> <td>3.5</td> <td>16.82</td> <td>0</td> <td>16.82</td> </tr> <tr> <td>20ftトリスチアルコンテナ</td> <td>20.32</td> <td>2.2</td> <td>18.12</td> <td>1.6</td> <td>16.52</td> </tr> </tbody> </table>		最大積載 重量	本体重量	積載貨物 総重量	容器重量	輸送可能 総量	ISOタンクコンテナ	20.32	3.5	16.82	0	16.82	20ftトリスチアルコンテナ	20.32	2.2	18.12	1.6	16.52
	最大積載 重量	本体重量	積載貨物 総重量	容器重量	輸送可能 総量																		
ISOタンクコンテナ	20.32	3.5	16.82	0	16.82																		
20ftトリスチアルコンテナ	20.32	2.2	18.12	1.6	16.52																		
2002			2002 ■毒劇物取締法施行令から IMO基準に適合したISOタンク コンテナであれば輸送容量 の制限除外の許可		■日本危険物コンテナ協会事務局として、関係省庁と 交渉した成果																		
2003				2003 ▲24t用20ftタンクコンテナ シャーシの開発	▲（欧州製品は国内仕様と合致せず、国内メーカー （日本トレックス社）と共同開発開始																		
2004		●3：★輸出入貨物限定の解除 規制解除までの年数 1985年⇒2004年		2004 同上、導入開始（実用化）	●3：最大積載量を30.48tまで引き上げ目付 輸出入貨物限定の制約解除の達成 さらに ▲積載量増量に伴う走行安全性の不安定さ解消への対 応として横転抑止装置付きシャーシの開発・普及																		
2007				◆輸送安全規則の一部改正 で「IT点呼」可能となる	◆開発および導入の目的 ①乗務員の健康管理・当日の状態把握 ②点検する側の工数削減																		

最後に ここに記した課題への取り組みやソリューション創出への行動は、現在もNRSのDNAとして受け継がれています
 これからもお客様を始めとするステークホルダーの皆さまとともに持続可能な社会創りへの貢献を続けてまいります

世界一を目指して

